

平成 27 年度 オホーツク海外海放流ホタテガイ貝柱歩留不良予報

概況

本年度は水温上昇が早く、産卵も早まるなど例年の春期と異なるため、歩留も含め、成長等にも十分注意が必要です。

海域：オホーツク振興局管内東部海域

レベル：2

短期では歩留不良の確率がやや高く注意が必要（約 2 / 3 の確率）。長期での歩留不良傾向は緩やか（約 1 / 3 の確率）。

予報期間：平成 27 年（2015 年）6～7 月（短期）

発生確率：0.64～0.67

予報期間：平成 27 年（2015 年）6～10 月（長期）

発生確率：0.33～0.36

海域：オホーツク振興局管内西部海域

レベル：3

短期、長期にわたり歩留不良の確率が高く警戒が必要（約 4 / 5 の確率）。

予報期間：平成 27 年（2015 年）6～7 月（短期）

発生確率：0.82～0.89

予報期間：平成 27 年（2015 年）6～10 月（長期）

発生確率：0.73～0.78

警戒レベル	意味
1	発生確率が極めて低い
2	発生確率は短期でやや高く、注意が必要
3	発生確率が高水準であり、警戒が必要
4	発生確率は最高水準にあり、十分な警戒が必要
5	広域・長期にわたり発生確率が高く、全域で十分な警戒が必要

注：貝柱歩留不良予報は、4、5 月の 4 つの観測値、最大平均貝柱歩留、最大貝柱グリコゲン濃度、最大クロロフィル濃度、最大海水温差（最高水温－最低水温）から、6、7 月の短期と、6～10 月の長期の貝柱歩留不良を統計的確率モデルで予測しています。